

編集後記

本号は、一昨年（2010年6月）の創刊号に続く第2号になります。創刊号で敷かれた編集方針をほぼ踏襲する形で本号は作成されました。主な構成は、投稿論文3編、研究ノート2編、翻訳1編、書評1編、学部研究動向5編、ニューズレター2編、その他となっています。投稿論文については、匿名査読者による審査を経て本号に掲載しました。

今回からの新たな試みとして、阿部准教授による「環境・エネルギー問題」をテーマにした連載シリーズがスタートしました。昨年の東日本大震災による原発問題に起因する環境問題やエネルギー問題への対応に関心が集まっており、今の社会的ニーズに一致したものだと思います。

とりわけ、大分県における自然エネルギーの活用状況やその潜在的可能性について論じられています。再生可能エネルギー利用の最先端を行くヨーロッパの事例についても緻密な現地調査がなされており（次回以降で紹介予定）、今後、日本での再生可能エネルギーの活用や展望を考えるうえで非常に参考になると思われます。

また、震災以降、「人と人との絆」や、「地域社会とのつながり」の大切さが見直されています。大学においても、学内の研究・教育だけでなく、「地域の知の拠点」として地域住民、自治体、産業界など地域社会と密接なつながりを持ち、社会的要請に応えるとともに、地域社会の成長や経済活性化に寄与することが重要であると思われます。このような地域との結びつき、および大学の知的資源の積極的な活用という観点から、特に、本号の中川助教による「別府大学人」を挙げておきたいと思います。

最後になりましたが、本号の編集にあたり論文執筆者、匿名査読者、編集委員など多くの先生方から多大なご助力をいただきました。貴重な時間を本号刊行のために割いて頂いた先生方に深く敬意を表するとともに、心より御礼申し上げます。

(河)